

脳のはなし

アルツハイマー病

認知症



が気になりだしたら

第3回

ついに登場！ 脳の「ごみ」を取り除く薬

前回は、認知症の原因となる「脳のごみ」が検査で見えるようになってきたお話をしました。今回は、その「ごみ」を取り除く治療が、いよいよ現実になってきたという最新の話題です。

認知症の原因のひとつとされる「アミロイド β 」といふ「ごみ」は、脳に少しずつたまつて神経細胞の正常な働きを妨げるようになります。これを取り除くことができれば、認知症の進行を遅らせたり、止めたりできる可能性が出てきます。その「脳のごみ」を掃除するために開発されたのが、抗アミロイド β 抗体医薬と呼ばれる新しいタイプの薬です。

代表的なものに、レカネマブとドナネマブがあります。どちらもアミロイド β にピタッとくつき、体の外へ排出されやすくて、前回は認知症の原因となる「脳のごみ」が検査で見えるようになってきたお話をしました。今回は、その「ごみ」を取り除く治療が、いよいよ現実になってきたという最新の話題です。

これは認知症治療の長い歴史の中で、大きな転換点となる出来事です。さらに最新の研究では、早い段階で治療を始めた患者さんでは、病気がほとんど進行しなかつたり、記憶のテストが改善したりする例もあることがわかつきました。つまり、「症状をやわらげの薬」の時代から、「原因に働きかける薬」の時代へと進みつつあるのです。

一方で、この薬は誰でも使えるわけではありません。対象となるのは、認知症の「ごく初期」の段階、または「軽度認知障害（MCI）」の段階、または「軽度認知障害（MCI）」ではありません。対象となるのは、認知症の中でも、日常生活の中でもできる「脳を守る工夫」についてお楽しみに。

この薬は、病気がほとんど進行しなかつたり、記憶のテストが改善したりする例もあることがわかつきました。つまり、「症状をやわらげの薬」の時代から、「原因に働きかける薬」の時代へと進みつつあるのです。一方で、この薬は誰でも使えるわけではありません。対象となるのは、認知症の中でも、日常生活の中でもできる「脳を守る工夫」についてお楽しみに。

山野嘉久 やまの よしひさ

聖マリアンナ医科大学
脳神経内科 教授・医学博士

脳神経内科医として、ウイルスによる脳や神経の病気を長年研究し、診療ガイドラインの作成にも携わるなど、診療と研究の両面で活動している。日常生活に役立つ「脳の健康のヒント」をお届けします。

